

1. Program Title プログラム名	持続可能な地域づくり: 長野県飯田市における調査
2. Professor 担当教員	銭 学鵬
3. Activity site 実習地	長野県飯田市
4. Academic Year 開講年度	2020 年度
5. Period in which program is offered. 開講時期	夏セッション
6. Subject 科目	環境・開発 フィールド・スタディ
7. Language 開講言語	・日本語 [実習で使用する場合があります] ・日本語
8. Credits 単位数	2 単位 -セメスターの登録可能単位数の上限に含まれません。
9. Overview プログラム概要	飯田市は、1996 年に「環境文化都市」の計画を掲げ、「環境と経済の好循環のまちモデル事業」、太陽光市民共同発電事業、日本初の地域環境権など様々な先進的な環境政策と取組を展開し、「環境モデル都市」に選定され、「明日の環境首都賞」を受賞した。さらに、飯田型公民館の仕組みが住民自治を支え、高いソーシャルキャピタルを醸成している。少子高齢化等地域社会の様々な課題を抱えている飯田は、「空あかるく風にほやかなるまち、いいだ」との環境像を持って、「人の営みと自然・環境が調和したまちづくり」を実践し、環境と経済の両立に向けて着実に進んでおり、「持続可能な地域づくり」にとって大変有意義な現場でもある。現地で、座学の理論学習と現場の「実践・体験」学習を融合し、多大学から異なる専門を持っている学生と大学教員及び現地専門家の連携により「インターディシプリナリー」なカリキュラムが構築できている。大学で地球や国規模の環境問題や対策を理論的に勉強してきた、地域でどう取り組まれているのかは現地で勉強しながら考えるべきである。
10. プログラムのねらい	長野県飯田市には、定住自立圏構想先行実施団体(総務省)、環境モデル都市の選定(内閣府)、人形劇フェスタをはじめとする多彩な市民文化活動、都市住民と農村のパートナーシップによる飯田型ワーキングホリデー、体験教育旅行など多様な地域づくり実績が挙げられている。これらを支える公民館活動等を土台とした独自の地域自治及び地域創生は学術的・実務的

	<p>に注目されている。地域づくりの先進地を目指す南信州・飯田において、他大学の学生と共に、高齢少子化が進む背景の下で、「持続可能な地域づくり」がどのようなものであるかを探る。さらに、いいだ人形劇フェスタやいいだりんごん祭等イベントに参加することによって、南信州地域の文化を体験する。</p>						
<p>11. Participation Fee (Approx.) 参加費 (目安)</p>	<table border="1" data-bbox="483 359 1312 594"> <thead> <tr> <th data-bbox="483 359 1105 415">項目</th> <th data-bbox="1105 359 1312 415">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="483 415 1105 531">現地プログラム費 (現地交通費、宿泊費、一部食費を含む)</td> <td data-bbox="1105 415 1312 531">¥32,000</td> </tr> <tr> <td data-bbox="483 531 1105 594">合計</td> <td data-bbox="1105 531 1312 594">¥32,000</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="483 611 764 642">[上記に含まれないもの]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="537 646 776 678">➤ 国内旅行保険</li> <li data-bbox="537 682 898 714">➤ 名古屋-飯田の高速バス</li> <li data-bbox="537 718 967 749">➤ 別府から名古屋までの交通費</li> <li data-bbox="537 753 943 785">➤ 現地の一部の食費など雑費</li> </ul>	項目	金額	現地プログラム費 (現地交通費、宿泊費、一部食費を含む)	¥32,000	合計	¥32,000
項目	金額						
現地プログラム費 (現地交通費、宿泊費、一部食費を含む)	¥32,000						
合計	¥32,000						
<p>12. Recommended qualifications knowledge 履修の目安</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="483 800 1295 831">- 地域づくり政策に関心のある学生の参加を推奨。</li> <li data-bbox="483 842 1463 978">- 国際学生の参加を歓迎しますが、日本語の本や資料を読み書きする力と、討論に積極的に取り組むガッツが求められる。</li> <li data-bbox="483 989 1349 1020">- その他の申請条件は、募集要項を参照してください。</li> </ul>						
<p>13. Standard of Completion 到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="483 1054 1430 1148">- 地域づくりを理解し、各自の課題に対しての問題発見と提案できるようになること。</li> <li data-bbox="483 1159 1455 1358">- フィールドワークにより研究を進める方法を身に付けること：効果的効率的調査計画を立てる、現地での専門家講演や聞き取り調査、アンケートからファストハンドの情報を得る、文献資料と現地調査の情報を用いて自分の論点を論述。</li> <li data-bbox="483 1369 1446 1463">- 他大学学生とのコミュニケーションを通して、多様な視点から地域づくりの課題にアプローチすること。</li> <li data-bbox="483 1474 1455 1568">- 各専門の教員の指導を受け、学際的視野を広げるようになること。</li> </ul>						
<p>14. 授業方法 Teaching Method</p>	<p>事前授業: 大学での講義と参考資料に基づきグループ討論</p> <p>現地調査: 大学の専門性(大学教授による講義・指導・評価)と飯田市でのフィールドワーク(地域づくり実践者による講義・地域づくり団体への聞き取り調査やワークショップ・農家民泊など)の組み合わせにより現地学習を行う。専門家による講義と指導、フィールドワーク(施設の見学)、アンケート調査・聞き取り調査;また、現地イベント(人形劇フェスタとりんごん祭り)など</p>						

現地の文化を理解する。最終日にそれぞれのグループ(学生)による報告会を実施する。

事後学習: 現地で得た情報を取りまとめ、グループレポートと個人学習感想文を作成する

[多文化協働学修に関する環境と手法]

国際と国内学生が共同に参加し、さらに、他大学学生とのコミュニケーションを通して、多様な視点から地域づくりの課題を勉強する環境を提供する。さらに、専門の異なる大学教授による講義・指導・評価と飯田市でのフィールドワーク(地域づくり実践者による講義・地域づくり団体への聞き取り調査やワークショップ・農家民泊など)の組み合わせ、フィールドワーク(施設の見学)、アンケート調査・聞き取り調査など多様な手法で協働学修を促す。

15. Schedule  
スケジュール

[事前授業]

日程	時限	内容
2020/7/1(水)	5、6限	持続可能な地域づくりの概念及び課題を学ぶ
		南信州・飯田の事例と政策を予習
2020/7/15(水)	6限	フィールド調査計画作成

[現地での実習] (訪問先の都合により一部変更される場合があります。)

日程	内容
TBA ※2020/8/2～8/10の間の3泊4日	[講義] オリエンテーション及び他大学学生との交流 いいだ人形劇フェスタと市民運営 都市と農村の関係(ワーキングホリデー) 「文化経済自立都市への挑戦」としての総論 市田柿による「食」と「農」の連携 飯田市の地域自治と公民館活動 環境モデル都市の環境取組 オーケストラと友に音楽祭の取組について 新しい地域づくりのカタチ 市民が参加する市政「自治基本条例」 中心市街が活性化基本計画

		<p>学習ふりかえり、「飯田市への提言」まとめ</p> <p>[実習]</p> <p>農家との交流体験、ヒアリング(農家民泊)</p> <p>いいだ人形劇フェスタの見学</p> <p>飯田りんごえんへの参加</p> <p>農産品加工演習</p> <p>実地調査(りんご並木・市街地再開発)</p>											
	TBA(~12:30)	発表準備と最終発表会											
	<p>* 注意: 以上の概要は過去に実施したプログラムに基づいたものであり、<u>2020年度の実施プログラムは、訪問先の都合により一部内容が変更になる可能性がある。予めご了承ください。</u></p> <p>[事後レポート]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>時限</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TBA 〆切</td> <td></td> <td>① 各自の個人調査レポート</td> </tr> <tr> <td>manaba course で提出</td> <td></td> <td>② 各自の感想文</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>③ 現地発表 PPT の修正版</td> </tr> </tbody> </table>		日程	時限	内容	TBA 〆切		① 各自の個人調査レポート	manaba course で提出		② 各自の感想文		
日程	時限	内容											
TBA 〆切		① 各自の個人調査レポート											
manaba course で提出		② 各自の感想文											
		③ 現地発表 PPT の修正版											
16. 成績評価方法 Method of Grade Evaluation	<p>すべての事前学習、現地調査、事後学習への出席と、最終レポートの提出が必要である。欠席した場合は単位認定をしない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 事前学習への積極的な取り組みと調査計画: 30%</li> <li>- 現地調査での積極的な取り組みと収集した情報や記録の正確さ: 20%</li> <li>- 現地最終発表会での積極的な取り組み: 20%</li> <li>- 最終提出物①②③: 30%</li> </ul> <p>① 各自の個人調査レポート</p> <p>② 各自の感想文</p> <p>③ 現地発表 PPT の修正版</p>												
17. Requirements for students. 学生への要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 暑い時期に室外活動もあるため、良好な健康状態と十分な体力が必要。</li> <li>- 現地に行くだけでなく、事前学習で資料の読解に真剣に取り組む、事後学習で情報をまとめることが必要。</li> </ul>												

	<ul style="list-style-type: none"> <li>- グループワークが基本であり、同時期に飯田市を訪問する他大学の学生との交流(発表など)がある。積極的に人と接する姿勢が必要。</li> <li>- 外部の多くの方々の協力のもとに実行するプログラムであるため、大人として責任と誠意のある行動が求められる。</li> </ul>
18. Textbook /教科書	
19. Further readings 参考文献	[円卓の地域主義、牧野光朗、事業構想大学院大学出版部、2016年]
20. Others / 上記以外	
21. Notes/その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 募集人数: 15</li> <li>- 最少実施人数: 5</li> <li>- 派遣地域安全情報: レベル 0</li> </ul>